

『共謀罪』 議会制民主主義 踏みにじる暴挙

委員会省略し成立強行

国会会期末を目前に控えた六月十五日早朝、安倍政権は参院本会議で「共謀罪」法案の採決を強行しました。参院法務委員会で採決を省略し、「中間報告」という異常な強行手段を取ったうえでの採決です。国民の批判に追い詰められた政府・与党の議会制民主主義を根底から踏みにじる暴挙です。

「共謀罪」法案が、安倍内閣と日本維新の会の暴挙により強行可決される前夜の緊迫した状況の中、国会は怒りの渦に包まれました。共謀罪NO！実行委員会と「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の主催による行動です。婦人民主クラブからも多数が参加、「共謀罪廃案！」、「安倍政権NO！」の声を夜空に響か

せました。午後六時過ぎ、国会議員会館前にはすでに人の波。中間報告で法務委員会の採決を省略、「本会議で採決へ」のニュースが流れます。国会議員のスピーチが続ぎ、参加者は力いっぱいコール。七時半を過ぎるころには、参加者は三千人を超えました。



6月14日、国会議員会館前で

者。「未来のための公共」が大抗議を呼びかけたのが代り。治安維持法いらな

です。「未来を守れ」「現代の治安維持法いらな

あの時代に戻してはならない

治安維持法弾圧犠牲者 杉浦正男さん

「共謀罪は治安維持法と同じ道を歩むでしょう」と杉浦正男さん、百二歳。「治安維持法」弾圧の犠牲者です。「九人兄弟なんですよ」という杉浦さん、早くに父を亡くし、小学校卒業後、東京印刷で文藝工として働きます。



「日本の労働組合は戦時中ゼロになったと言いますが、ゼロではなかった。印刷労働者には一九三五年から終戦まで『出版工倶楽部』という団体

があり、活動していました。出版工倶楽部は労働組合への弾圧を避けるために親睦会形式で運営されていました。しかし中身は労働組合と同じ

です。首切り反対から工場閉鎖反対のたたかい、囲碁、将棋、演劇の鑑賞や、読書会、俳句会、旅行会など、さまざまな要求で組織し、活動してい

ました。また、科学的社会主義の学習も行い、多くの青年を育てました」ところが一九四〇年、大日本産業報国会が結成され、諸労働団体を吸収。「政府はアメリカとの戦争にとび込むために労働組合を全部つぶして、政府、軍部に協力する組織につくりかえたのです。出版工倶楽部へも解散勧告が来ます。議論の末、警官立ち合いで偽装「解散」しますが、以後も活動を続けました。

しかしついに一九四二年、この活動が発覚して三十名が検挙され、そのうち四名が治安維持法違反で起訴されました。指

導者の柴田隆一郎氏は七年の刑を受け、一九四五年二月、横浜刑務所で獄死しています。「私も三年の刑で横浜刑務所に収監されました」

「パクられた時はしぶん乱暴でした。罪名も何も言わないのです。ただ二時間くらい、打ち叩く、蹴飛ばす、踏みつける、『今戦地では兵隊さんたちが国を守るために命がけて戦っているんだ』『貴様ら、ぶち殺してもいいんだ』と滅茶苦茶の拷問でしたね」

杉浦さんは、収監中の一九四五年三月十日、東京大空襲で奥さまを亡くします。「二六か月の新婚生活ですよ。その時、女房のお腹には赤ちゃんがいました。女房は生まれ子を静岡の実家に預けて、刑務所に入っている私のために東京に戻ったのです。そして三月十日、避難した江東区内の小学校で爆死。痛恨のことでした。杉浦さんが解放されたのは、敗戦年の十月六日でした。

「一般の人には及ぼさない」というのが治安維持法制定の時の約束でした。ところが弾圧の対象は共産主義者から学者、文化人、大衆団体へと広がっていきました。

DVD「種まく人びと」 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟創立50年記念映画 監督 鶴見昌彦 45分 頒価千円 NO.3 (5842) 6461